

事業名称	地産地消ひめじバル
団体名・代表者	赤ちょうちん屋台の会 代表 三枝 達矢
協働の相手方	姫路市産業局 農林水産部 農政総務課 農政・地産地消担当

目的	姫路市内でとれる野菜や魚介、姫路和牛、姫路ポーク、桃色吐息、播州地鶏といった地元産食材を使った料理や地酒、特産品を観光客や姫路市民に提供する食のイベント「地産地消ひめじバル」を開催し、観光客や姫路市民に姫路の食について再認識してもらうとともに、日頃利用しない店を知ってもらう。同時に参加店が新たな特産品を開発し、中心市街地や飲食店の活性化を図る。
内容	<p>姫路の中心街で地元産の食材を使った一品が楽しめる「地産地消ひめじバル」を9月23日、開催した。</p> <p>姫路駅前などの繁華街にある飲食店32店舗が参加し、参加店ごとに地元産の食材を使った自慢の一品と播磨の地酒などのドリンクをセットし、バル参加者約1000人に提供した。</p> <p>バル参加者はあらかじめ、参加証となるリストバンド（500円）を購入していただき、同時に参加店とバルメニューが紹介された冊子状のバルマップを提供した。</p> <p>バルメニューの価格は300円～1,500円と、それぞれの店舗により異なり、開催時間も各店で違い、一部の店ではランチタイムから実施した。</p> <p>参加店は、約1万6千人のメンバーで構成されるフェイスブックの「姫路ランチ&amp;ディナー」グループメンバーから推薦を受け、決定した。</p>
事業経過	当日は、バル参加者が各店平均して60～80人訪れ、参加者の中には10店以上の店を訪れた人もおり、それぞれのお店の自慢の一品と飲み物を楽しむとともに、その様子や感想など写真を添えて、FacebookなどSNSに投稿した。参加者にとって、初めて訪れるきっかけにもなり、バルを通じて新たな顧客が獲得でき、ネットでも話題になるなど、姫路市の中心街の飲食店の活性化につながった。
事業の効果	<p>参加者は、姫路やその周辺でとれる様々な食材、特産品を使った料理を味わうことができ、それぞれの飲食店の工夫や味を実際に自分で感じるにより、姫路で様々な食材が生産されていることがわかり、地産地消について実感できるイベントとなった。</p> <p>初めて参加店に訪れた方も多く、来店の良いきっかけとなった。参加店を紹介するバルマップは、バルが終わった後も各店のガイドブックとして活用されており、バルを通じた新たな顧客の獲得につながった。</p>
今後の展望	<p>参加店、参加者とも好印象のイベントであったため、第2回目も来春に開催し、年2回程度バルを継続開催し、地産地消について、実感できる機会としたい。</p> <p>今回のバルで提供された地元食材による料理も各店で定期的に提供していくなど、地産地消を推進する飲食店として、観光客や地元の人に認知してもらい、来店するきっかけとしていきたい。今回立ち上げたホームページを活用して、姫路の地産地消の情報を広く広報していきたい。</p>

### 【実施団体の事業総括・感想等】

<p>32店舗の参加店の募集について、フェイスブックの「姫路ランチ&amp;ディナー」グループメンバーから推薦を受けて決定したため、ファンの応援も受けられ、自分たちで盛り上げていく参加型のバルとなったことが、成功の要因と考えられる。SNSや参加店を通じて口コミ等の効果で、当初の計画通り約1000人が参加していただき、盛況に終えることができた。</p> <p>日頃行きたくてもなかなか行けないと多くの人が思っている店も地産地消というキーワードに賛同いただき、バルに参加してもらえ、店も参加者も喜んでもらえる結果となったことに主催者として、年2回程度のペースで継続実施していける手ごたえを感じた。</p>
---

### 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>バルを通じて地産地消を多くの人に知ってもらい、意識が高まることは、地場農業の活性化に繋がる取り組みであった。</p>
---